

島根県シェッド・シェルター修繕計画

平成31年3月

島根県 土木部 道路維持課

目 次

1. はじめに

- (1) 本計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- (2) 対象施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- (3) 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

2. 施設の現状

- (1) 県内のシェッド・シェルター施設数・・・・・・・・ P3
- (2) 施設の年齢構成・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
- (3) 定期点検・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
- (4) 詳細調査・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
- (5) 県管理施設で確認された変状事例・・・・・・・・ P5
- (6) 健全度評価方法・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- (7) 健全度の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P7

3. 老朽化対策の実施

- (1) 維持管理水準・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- (2) 対策の優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- (3) シェッド・シェルター修繕方針・・・・・・・・ P8
- (4) 対策費用・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

別添

- シェッド、シェルター点検・修繕計画一覧表・・・・・・・・ P10

1. はじめに

(1) 本計画の位置付け

公共施設の長寿命化を図るため、国において平成25年11月29日に「インフラ長寿命化基本計画」(以下、「基本計画」という。)が策定されました。

本県では、この基本計画に基づく「インフラ長寿命化計画(以下「行動計画」という。)」として、平成27年9月に「公共施設等総合管理基本方針」を策定しました。

さらに、本県土木部において平成27年12月に公共土木施設(道路、河川など7分野14施設)の適切な維持管理を効率的かつ計画的に実施するための「島根県公共土木施設長寿命化計画」(以下、「長寿命化計画」という。)を策定したところです。

本計画は、長寿命化計画に基づき、シェッド・シェルターにおける定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めたものであり、行動計画に基づく個別施設計画として位置付けます。

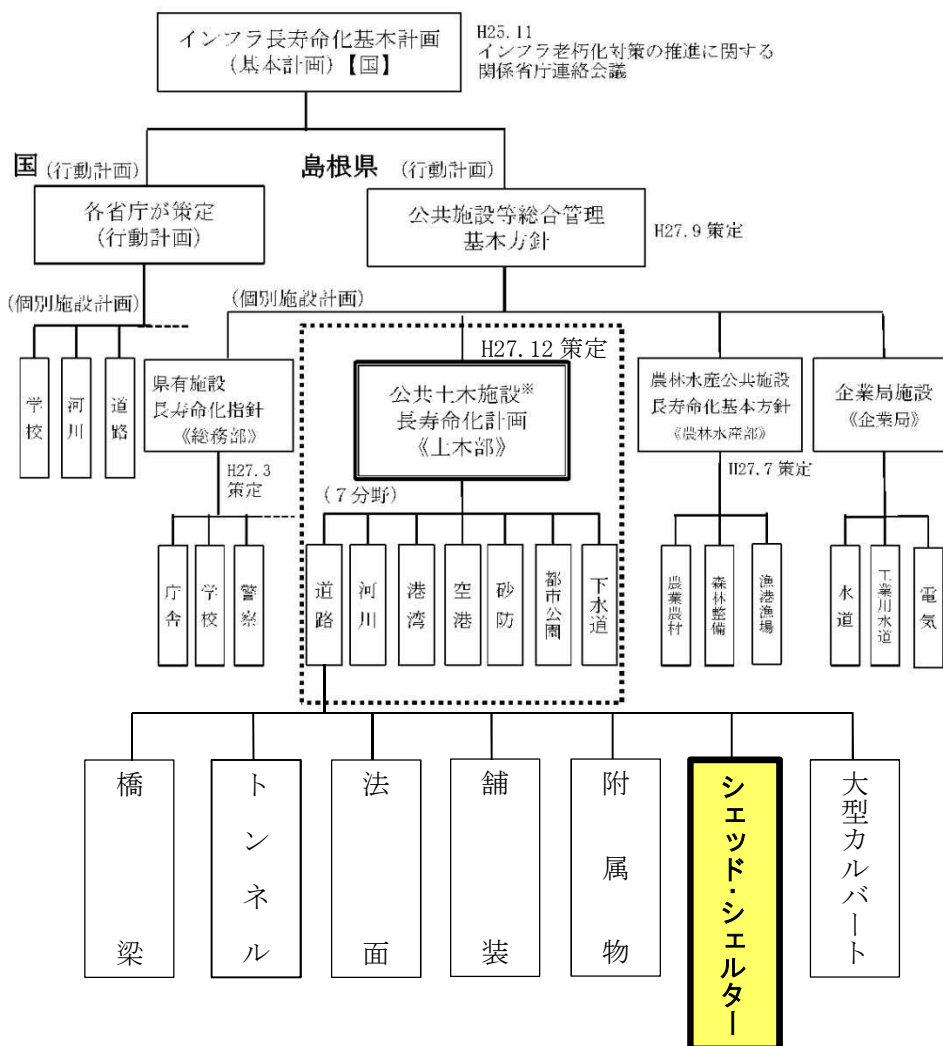


図1 インフラ長寿命化計画体系図

(2) 対象施設

本計画において対象とする施設は、島根県が管理するロックシェッド、スノーシェッド、スノーシェルター計49基とします。

(3) 計画期間

計画期間は5年間とし、定期点検により毎年度新たに対策が必要な変状が発見されるため、最新の点検結果に基づき毎年度見直し（フォローアップ）を行います。

今回は、平成29年度から平成33年度までの計画とします。

2. 施設の現状

(1) 県内のシェッド・シェルター施設数

島根県では、平成31年3月現在、49基のシェッド・シェルターを管理しています。

表 2-1 各県土整備事務所管内の施設数

(H31. 3月現在)

事務所	事業所	施設数			
		ロックシェッド	スノーシェッド	スノーシェルター	
松江	松江	1	1	0	0
	広瀬	1	0	0	1
雲南	雲南	11	2	1	8
	仁多	3	1	2	0
出雲	出雲	2	1	1	0
県央	県央	10	6	2	2
	大田	0	0	0	0
浜田	浜田	9	5	1	3
益田	益田	7	4	3	0
	津和野	2	2	0	0
隠岐	島後	3	3	0	0
	島前	0	0	0	0
計		49	25	10	14

表 2-2 施設数及び施設延長

管理施設合計		ロックシェッド		スノーシェッド		スノーシェルター	
施設数	延長(m)	施設数	延長(m)	施設数	延長(m)	施設数	延長(m)
49	5,279	25	1,296	10	1,568	14	2,414

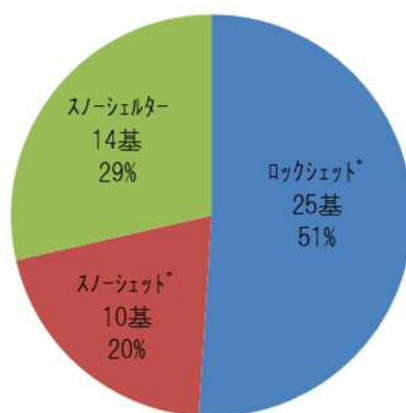


図 2-1 施設数の割合

(2) 施設の年齢構成

県が管理するシェッド・シェルター49基のうち、20年後には建設後50年を経過する施設の占める割合は51.1%となり、今後、高齢化施設が増大します。

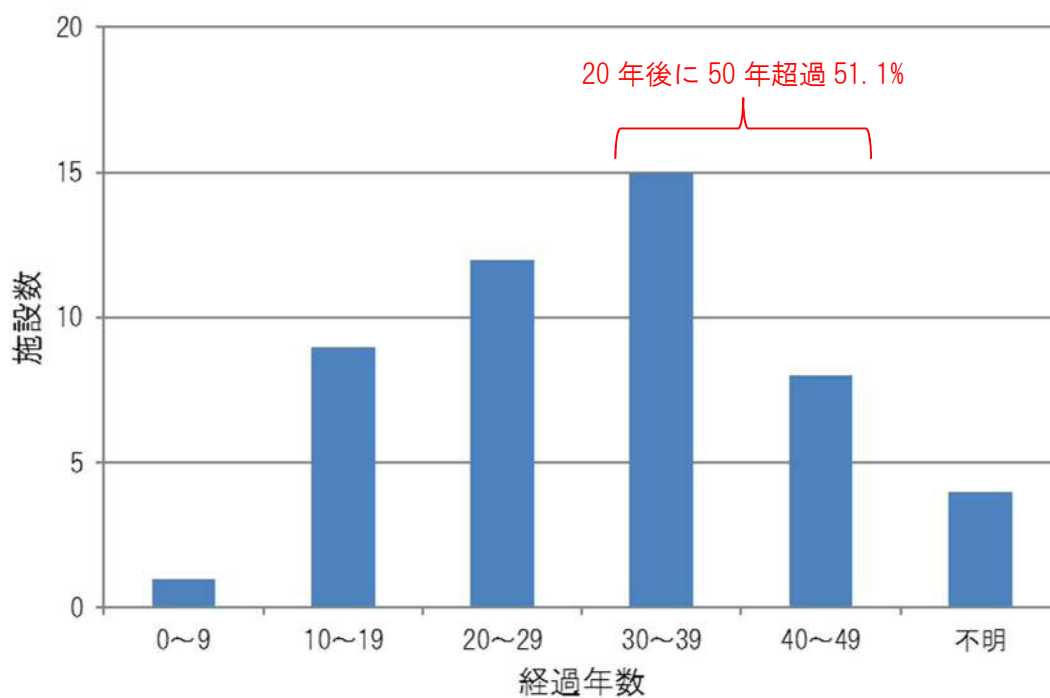


図 2-2 経過年数別の施設数分布

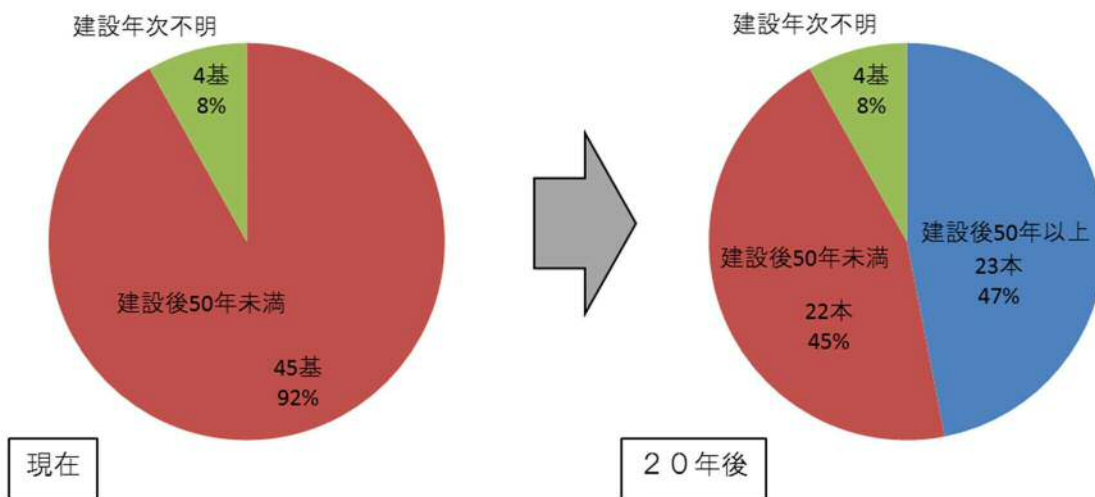


図 2-3 建設後50年以上の施設数

(3) 定期点検

1) 点検の頻度

定期点検は、5年に1回の頻度で実施することを基本とします。

シェッド・シェルターの最新の状態を把握するとともに、次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得ることを目的とします。

2) 点検の方法

定期点検は、近接目視により行うことを基本とします。なお、近接目視による変状の把握には限界がある場合もあるため、必要に応じて触診や打音検査等を含む非破壊検査技術などを適用します。

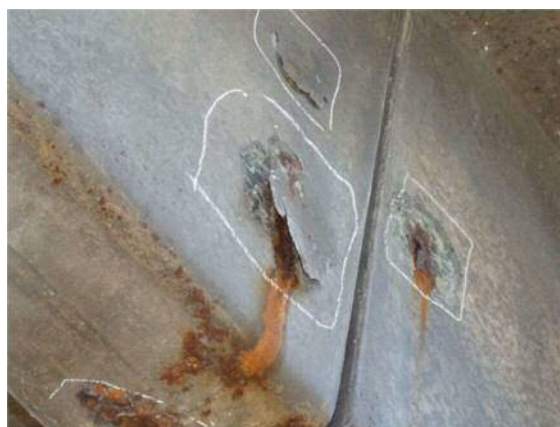
(4) 詳細調査

点検の結果、変状原因や規模、進行可能性などが不明であり、調査を行わなければ健全度の判定が適切に行えない状態と判断された場合には、速やかに調査を行い、その結果を踏まえて健全性を診断します。

(5) 県管理施設で確認された変状事例



PC 鋼材からの錆汁（主梁）



コンクリート剥離、錆汁、鉄筋露出（横梁）

写真 2-1 PC ロックシェッドの変状事例



ひび割れ、はく離・はく落（横梁）



はく落を伴う鉄筋露出（頂版）

写真 2-2 PC スノーシェッドの変状事例



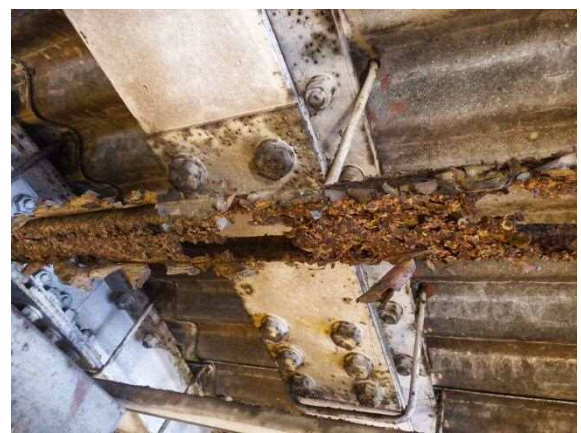
横梁の破断



ガセットプレート部分の腐食



頂版の断面欠損



照明取付レールの断面欠損、破断

写真 2-3 鋼製スノーシェルターの変状事例



受台のひび割れ



取付ボルト (F11T) の破断

写真 2-4 鋼製ロックシェッドの変状事例

(6) 健全度評価方法

シェッド・シェルター毎の健全度の診断は、下表2-3の判定区分により行います。

表 2-3 判定区分

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

(7) 健全度の状況

平成31年3月現在、早期に修繕が必要な健全度Ⅲの施設数は全体の半数近くを占めています。

(単位：施設数)

健全度				合計
IV	III	II	I	
0	23	26	0	49

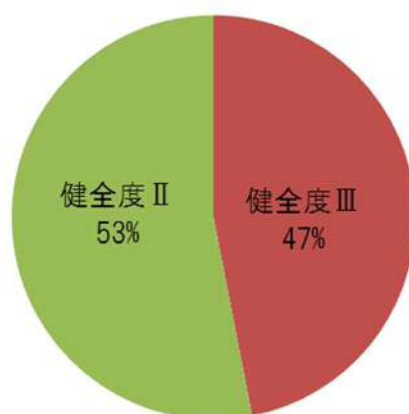


図 2-4 健全度別施設数の割合

3. 老朽化対策の実施

(1) 維持管理水準

点検・調査の結果に基づく実際の措置（対策、監視等）は、部材単位の健全性の診断結果に基づいて検討します。

表 3-1 判定区分

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

計画期間中の
修繕対象
(H29～33年度)

表 3-2 判定の評価単位の標準

上部構造				下部構造		支承部	その他
主梁	横梁	頂版	壁・柱	受台	谷側基礎		

上表 3-1 のとおり、判定区分 II の変状については、予防保全の観点から状況に応じて監視や措置を行うことが望ましい状態とされています。

しかしながら、現時点において修繕が完了していない判定区分 III の変状が多数存在し、今後の点検結果により III の変状が更に増えることが予想されるため、本計画期間（平成 29～33 年度）においては判定区分 IV～III の修繕を行い、「残存変状の判定区分 II 以下」を管理目標とします。

(2) 対策の優先順位

定期点検の結果、健全度 IV と判定された施設を最優先で実施し、続いて健全度 III と判定された施設の修繕工事を実施します。

点検・詳細調査・補修によって健全度のランクを変更した場合には、優先順位の見直しを行います。

(3) シェッド・シェルター修繕方針

- 1) 点検、詳細調査の結果に基づく健全度診断に応じて対策を講じます。
- 2) 緊急対応の必要がある施設（健全度 IV）は、変状確認後直ちに応急対策を行い、診断後 2 年以内に本対策（中～長期的に施設の機能を回復・維持することを目的とした対策）を行います。

3) 早期に措置を講じる必要がある施設（健全度Ⅲ）は、診断後10年以内に本対策を行います。

（4）対策費用

要対策施設の変状の程度、進行度合い等を考慮し、箇所毎に必要な修繕工事費の精査を行います。

前述の「（3）シェッド・シェルター修繕方針」に基づき、所定の期間内における修繕完了を目標とし、予算の平準化にも配慮しながら各年度の対策費用を決定します。

シェッド, シェルター一点検・修繕計画一覧表

シェッド、シェルター点検・修繕計画一覧表

平成31年3月現在

No.	施設管理番号	施設区分	事務所	事業所	道路種別	路線名	施設名	延長(m)	完成年	経過年数	直近の点検結果		対策内容	対策費用(百万円)	点検計画 ●：定期点検					修繕計画 ●：修繕工事					
											点検実施年度	判定区分			H29	H30	H31	H32	H33	H29まで	H30	H31	H32	H33	
1	R-01	ロックシェット	益田	津和野	国	187号	白谷洞門	55.8	1973	46	H26	Ⅲ	クラック補修	12			●				●	●			
2	R-02	ロックシェット	雲南	仁多	国	314号	湯の原ロックシェット	45.5	1973	46	H30	Ⅲ	当て板補修	8		●								●	●
3	R-03	ロックシェット	益田	益田	国	191号	長橋洞門	50.0	1977	42	H26	Ⅲ	クラック補修	2			●							●	●
4	R-04	ロックシェット	浜田	浜田	主	浜田八重可部線	市木覆工	28.1	1978	41	H27	Ⅱ						●							
5	R-05	ロックシェット	浜田	浜田	一	黒沢安城浜田線	河内覆工	33.0	1980	39	H27	Ⅲ	剥落防止	5					●						
6	R-06	ロックシェット	益田	津和野	国	187号	新畑洞門	75.0	1982	37	H26	Ⅱ					●								
7	R-07	ロックシェット	雲南	雲南	国	314号	日登洞門	71.0	1982	37	H27	Ⅱ							●						
8	R-08	ロックシェット	浜田	浜田	国	261号	坂本第1洞門	51.0	1984	35	H27	Ⅱ								●					
9	R-09	ロックシェット	浜田	浜田	国	261号	坂本第2洞門	49.5	1984	35	H27	Ⅱ								●					
10	R-10	ロックシェット	浜田	浜田	主	浜田美都線	長瀬洞門	85.5	1985	34	H27	Ⅱ								●					
11	R-11	ロックシェット	雲南	雲南	主	松江木次線	海潮温泉洞門	44.2	1985	34	H27	Ⅱ								●					
12	R-12	ロックシェット	隠岐	島後	主	西郷都万郡線	波波洞門	33.0	1987	32	H30	Ⅲ	クラック補修	20		●								●	●
13	R-13	ロックシェット	益田	益田	国	488号	基盤洞門	55.5	1987	32	H26	Ⅲ	断面修復	2				●						●	●
14	R-14	ロックシェット	隠岐	島後	主	西郷布施線	三島洞門	36.0	1988	31	H30	Ⅲ	洗堀防止	3		●								●	●
15	R-15	ロックシェット	出雲	出雲	主	斐川一畑大社線	越目洞門	18.7	1992	27	H26	Ⅲ	断面修復、表面被覆	5				●							
16	R-16	ロックシェット	隠岐	島後	主	西郷都万郡線	横尾洞門	20.0	1994	25	H30	Ⅱ					●								
17	R-17	ロックシェット	益田	益田	国	488号	猪木谷洞門	69.0	1995	24	H26	Ⅱ							●						
18	R-18	ロックシェット	松江	松江	主	松江鹿島美保関線	御津洞門	100.0	1996	23	H30	Ⅱ						●							
19	R-19	ロックシェット	県央	県央	主	川本波多線	高畑ロックシェット	54.0	1998	21	H29	Ⅱ					●								
20	SD-11	スノーシェット	県央	県央	一	市木井原線	市木スノーシェット①	220.0	2001	18	H29	Ⅲ	剥落防止	1		●							●	●	●
49	SD-12	スノーシェット	県央	県央	一	市木井原線	市木スノーシェット②	90.0	2001	18	H29	Ⅱ					●								
21	R-21	ロックシェット	県央	県央	一	別府川本線	谷戸ロックシェット	10.0	2007	12	H29	Ⅱ					●								
22	R-22	ロックシェット	益田	益田	国	488号	澁川落石防止棚	250.0	2010	9	H26	Ⅱ							●						
23	R-23	ロックシェット	県央	県央	主	浜田作木線	伏谷ロックシェット	61.6	不明	不明	H29	Ⅲ	当て板補修	198		●							●	●	●
24	SD-01	スノーシェット	雲南	雲南	主	川本波多線	角井防雪坑	117.0	1980	39	H27	Ⅲ	欠損部復元	105				●					●	●	●
25	SD-02	スノーシェット	県央	県央	国	261号	鱒淵洞門	177.0	1987	32	H29	Ⅲ	断面補修	13		●							●	●	
26	SD-03	スノーシェット	浜田	浜田	国	186号	傍示スノーシェット	200.0	1995	24	H27	Ⅱ							●						
27	SD-04	スノーシェット	県央	県央	一	美郷飯南線	酒谷洞門	160.0	1996	23	H29	Ⅱ					●								
28	SD-05	スノーシェット	出雲	出雲	一	佐田八神線	大呂スノーシェット	146.0	1999	20	H26	Ⅲ	クラック補修	1				●							
29	SD-06	スノーシェット	雲南	仁多	国	432号	上阿井スノーシェット1	115.0	2001	18	H26	Ⅱ							●						
30	SD-07	スノーシェット	雲南	仁多	国	432号	上阿井スノーシェット2	145.0	2006	13	H26	Ⅱ							●						
31	SD-08	スノーシェット	益田	益田	国	191号	赤谷スノーシェット	40.0	不明	不明	H26	Ⅲ	クラック補修	3								●			
32	SD-09	スノーシェット	益田	益田	国	191号	白木谷スノーシェット	38.0	不明	不明	H26	Ⅲ	クラック補修	2										●	●
33	SD-10	スノーシェット	益田	益田	一	波佐匹見線	下道川下スノーシェット	120.0	不明	不明	H26	Ⅲ	クラック補修	2						●				●	●
34	ST-01	スノーシェルター	雲南	雲南	主	川本波多線	釜谷峠雪覆坑	80.0	1972	47	H27	Ⅲ	断面修復	11										●	●
35	ST-02	スノーシェルター	雲南	雲南	主	川本波多線	恩谷防雪坑	191.0	1972	47	H27	Ⅲ	部材修繕工	110										●	●
36	ST-03	スノーシェルター	県央	県央	主	浜田八重可部線	三坂峠スノーシェルター	214.1	1973	46	H29	Ⅲ	当て板補修	208		●							●	●	●
37	ST-04	スノーシェルター	浜田	浜田	国	186号	登り谷スノーシェルター	150.0	1978	41	H27	Ⅲ	主梁、横構、支承補修	312									●	●	●
38	ST-05	スノーシェルター	県央	県央	一	三次江津線	大利峠洞門	186.0	1988	31	H29	Ⅱ					●								
39	ST-06	スノーシェルター	雲南	雲南	主	安来木次線	奥田原峠防雪坑	100.0	1989	30	H27	Ⅱ								●					
40	ST-07	スノーシェルター	松江	広瀬	一	草野横田線	縄久利峠雪覆坑	120.0	1989	30	H26	Ⅲ	ひびわれ注入、断面修復	76									●	●	●
41	ST-08	スノーシェルター	浜田	浜田	国	186号	井手ヶ平スノーシェルター	200.0	1991	28	H27	Ⅲ	クラック補修	5					●					●	●
42	ST-09	スノーシェルター	雲南	雲南	一	頓原八神線	長谷スノーシェルター	160.0	1993	26	H27	Ⅱ								●					
43	ST-10	スノーシェルター	雲南	雲南	国	314号	深野スノーシェルター	35.2	1996	23	H27	Ⅱ								●					
44	ST-11	スノーシェルター	県央	県央	一	市木井原線	市木スノーシェルター	90.0	1997	22	H29	Ⅲ	クラック補修	8		●								●	●
45	ST-12	スノーシェルター	雲南	雲南	一	頓原八神線	獅子スノーシェルター	170.0	2001	18	H27	Ⅱ								●					
46	ST-13	スノーシェルター	雲南	雲南	主	川本波多線	角井スノーシェルター	48.0	2002	17	H27	Ⅱ								●					
47	ST-14	スノーシェルター	雲南	雲南	主	川本波多線	東三瓶スノーシェルター	270.0	2000	19	H27	Ⅱ								●					
48	ST-15	スノーシェルター	浜田	浜田	国	186号	傍示スノーシェルター	400.0	2001	18	H27	Ⅱ								●					